

開会の挨拶

北陸信越工学教育協会 会長
金沢工業大学 学長
石川 憲一 氏

只今、ご紹介を戴きました北陸信越工学教育協会会長、金沢工業大学学長の石川 憲一でございます。本日は、平成27年度に於ける本協会の年次シンポジウムを『北工教活性化ワーキング5年間の取組みの成果と課題』と題して開催致しましたところ、年度末の大変ご多用の中を多数の会員の方々にご参加戴き誠に有難うございました。衷心より感謝申し上げます。

扱、顧みますと本協会・北工教は、昭和27(1952)年6月、金沢大学工学部に於いて設立趣意書を高々と掲げ創立総会が開催され、疲弊した我が国を工学教育に立脚した人材育成を通じた工業力の進展によって再生すべく勇躍として船出致しました。しかしながら、古来よりの名言(唐の第2代皇帝・太宗)『創業は易く、守成は難し』が示唆するように、『何事も新しく始めることは容易ではあるが、それを然るべく運営し守備していくことの方が難しい』との喩えのように、北工教は創立後半世紀を過ぎ、人間で言えば『還暦』を迎える頃には、所謂マンネリ化が顕在化しておりました。そこで、草創期の先人達の熱情に想いを馳せながら、創立60周年を期した記念シンポジウムの開催を企画し、平成24年3月、当酒井メモリアルホールに於いて開催致しました。そして、これらの内容は会報・60周年記念号として発行され、次の60年に向けた礎が築かれたものと考えております。

そこで、北陸信越地域の工学教育の底上げと更なる活性化を目指して、福井大学の橋本明弘先生を中心とする『北工教活性化WG』を立ち上げ、5年間の活動計画の下に鋭意検討を重ねて戴きました。

今回の年次シンポジウムでは、『北工教活性化WG』の掉尾を飾るに相応しく、大変ご多用の中を次の方々に理工系人材の育成についてご講演戴くことになりました。

先ず初めに、基調講演として前国立研究開発法人物質・材料研究機構 理事長 潮田 資勝先生から、長年の国内外に亘る教育・研究のご経験を踏まえて『21世紀の理工学教育について』と題してご講演を戴きます。

次に、招待講演として公益社団法人 日本工学教育協会専務理事・剣持庸一氏から『日本工学教育協会の現状と課題』と題してご講演を戴きます。ご案内のように日工教と各地区工教とは、創立以来大変密接な関係を有しており、毎年開催される年次大会は日工教と各地区工教との協力の下に実施され、平成16年度より300~400件の講演発表が行われております。

茲で、一旦休憩を挟み、先程もご紹介致しました福井大学の橋本 明弘先生から『活性化WGの5年間の振り返って—現状と課題—』と題してご講演を戴きます。本講演では、活性化WGの検討成果等について詳細な内容がプレゼンテーションされます。

最後のご講演と致しましては、アルスコンサルタンツ(株)代表取締役 大深 伸尚氏から『北工教の5年間の振り返って—企業会員の視点から—』と題してご講演を戴きます。従来、大深氏は人材育成に大変ご熱心であり、北工教の総会や石川県支部総会に皆勤に近く参加されて参りましたので、企業人の視点から北工教をはじめ高等教育機関が実践する工学教育・技術者教育に対するアドバイス更にはご叱責を戴きますようお願い申し上げます。

本シンポジウムは、石川工業高等専門学校校長村本健一郎先生の閉会挨拶を以て終了致します。

尚、「北工教活性化WG5年間の取組みの成果」並びに本日も講演戴きました内容につきましては、会報第64号に掲載し、会員各位のお手元にお届けする予定であります。

以上をもって本シンポジウム開会のご挨拶とさせていただきます。

ご清聴有難うございました。